

東国寺

寺号 浄土宗 普照山光明院東国寺

本尊 阿弥陀如来像 作者年代等不詳

脇仏 観音菩薩像 作者年代等不詳

勢至菩薩像 作者年代等不詳

縁起・沿革・由来

『新編武蔵風土記稿』には、浄土宗埼玉郡平方村林西寺末、普照山光明院と号す。本尊阿弥陀、開山僧存也、文禄二年【一、五九三】当寺を建立し、慶長十年【一、六〇五】正月二十七日寂す。と記されている。

『武蔵国郡村誌』には、「東国寺」村の西方にあり、浄土宗埼玉郡平方村林西寺の末派なり。開山僧存也、文禄二年当寺を建立し慶長十年正月二十七日寂す【風土記】と記されている。

『寺の伝記』

開山僧の存也【心蓮社光誉上人存也大和尚】は、当地に來りて暴地を開墾し、田畑約一町歩余り、その中で高地を選んで当寺を建立し、日夜念仏修業し民衆の感化に努力して、三尊の如来と香取大神の御尊像及び十一面観音菩薩・虚空像菩薩の尊像を安置して、朝夕祈願して利益を賜る。と伝えられている。

『寺の宝』

当山護法八幡宮記 一冊

青石塔婆

その他

常楽寺

寺号 真言宗豊山派室生山常楽寺

本尊 阿弥陀如来像 作者不詳【建治元年（一、二七五）】作と伝えられる。

脇仏 弘法大師像 作者年代等不詳

興業大師像 作者年代等不詳

阿弥陀如来坐像 銘銅造 応永二十七年【一、四二〇】道願他九

名の合力作

縁起・沿革・由来

『新編武蔵風土記稿』には、新義真言宗、京都醍醐無量寺末、慶長年中【一、五九六】一、六一五【薬師堂領として、三石の御朱印を賜ふ、本尊

阿弥陀、境内に弘安年中【一、二七八〜一、二八八】の古碑あり、薬師堂・不動堂・鐘楼【正保四年鑄造の鐘をかく】と記されている。

『武蔵国郡村誌』には、「常楽寺」村の中央にあり、新義真言宗山城国醍醐無量院の末派なり、○慶長中薬師堂領として三石の御朱印を賜ふ境内に弘安年中の古碑あり、【風土記】と記されている。

『寺の伝記』

開基は不詳であるが、開山は、弘安五年【一、二八二】僧・俊禅と伝えられている。

その他 「一」

境内の門を入れて左側に、お堂がある。『薬師堂』このお堂には、慶安元年【一、六四八】に三代將軍家光より、堂領三石の御朱印状が与えられている。由緒あるお堂であり、堂内には、弘安九年【一、二八六】四月、土

佐の仏師作と言われる高さ一、六メートルの「薬師如来像」の木像と十二神将・日光菩薩像・月光菩薩像が共に金色に輝き安置されている。また、堂内の格天井は、格間ごとに、徳川家の定紋である『三葉葵』が画かれている。この「薬師如来像」は、十二年に一度の寅年の五月八日【花祭り】にのみ、御開帳されている。

「二」

「薬師堂」の並びにある小高い処に、弘安十一年【一、二八八】四月と刻まれた板碑【青石塔婆：高さ一、二メートル】がある。

「三」

板碑の前に、昔人骨が納められていた甕棺【経五十センチメートル・高さ七十センチメートル】があつた。【現在は教育センターにて保存】この甕棺はいずれかの末寺の墓地から発掘されたもので、時代は不詳である。

◎群馬県大田地方には、このような甕棺が多数出土しており、縄文期から弥生期のもものと

推定されている。

「四」

参道入り口山門の左側に、『伝説』として伝えられている『駒留めの松』跡がある。【今は根株だけが僅かに残されている】これは、白河天皇の時代、永保三年【一、〇八三】九月、奥州の豪族清原氏一簇の内部対立から兵乱が始まった、いわゆる、後三年の役である。この年、陸奥守兼鎮守府将軍となった源義家は、職責上、この争いを鎮定すべく下向。その途中で、この寺に立ち寄って休憩した時、山門の脇にあった「松」に駒を繋いだと言う伝えから、この松を『駒留めの松』と称したと伝えられている。

西 藏 院

寺号 真言宗豊山派薬王山西藏院

本尊 阿弥陀如来像 作者年代等不詳

脇仏 不動明王像 作者年代等不詳

十二神将軍像 作者年代等不詳

縁起・沿革・由来

『新編武蔵風土記稿』には、新義真言宗、赤沼村常楽寺末、薬王山と号す、本尊阿弥陀、と記されている。

『武蔵国郡村誌』には、「西藏院」村の西南にあり新義真言宗赤沼村常楽寺の末派なり、と記されている。

『寺の伝記』

長い間無住の寺の為開基・開山等不詳

その他 「一」

この寺は、銚子口村の名主【時田家・川鍋家】の菩提寺である。それは、道路の反対側にある閻魔堂の前にある墓地内に、両家の宝篋印塔が数基あるところから思考される。また、檀家は銚子口村の村役人を始め、農民等であり、銚子口村の有力な寺であることが推定される。現在は常楽寺の兼務寺となっている。境内は非常に荒れ果てていて、筆者が以前調査した時は、門内右側に黒ぼく【火山の溶岩】を積み重ねた祠があり、付近の人は耳の病に靈験があると言ひ信仰されていた不動明王が祠られていたが、今はその存在もない。

「二」

門前の道路の反対側に、お堂がある。【現在は地域の集会所に利用されている。】

この中に等身大の【閻魔像】が安置されている。筆者が故日向熙先生と調査した時、左隅に真黒に煤けた仏像があるのを発見した。住民に聞いても分からなく、この様な仏像のあることは認知していなかった。布で拭いたところ【閻魔様】であることが確認出来た。また、付近には張り付け獄門の晒し首の模擬飾り等が供えられていた。『武蔵国郡村誌』に記載されている。『閻魔庵』であることが確認された。

自性院

寺号 真言宗豊山派覚王山自性院

本尊 阿弥陀如来像 昭和二十二年の大水害により流失

縁起・沿革・由来

『新編武蔵風土記稿』には、新義真言宗、赤沼村常楽寺末、覚王山と号す。阿弥陀を本尊とす。と記されている。

『武蔵国郡村誌』には、「自性院」村の北方にあり新義真言宗赤沼村常楽寺の末派なり。と記されている。

『寺の伝記』

この寺は、水角地域の農民の墓地であり、詳細は不明

その他

この寺は、昭和二十二年の大水害の際、倒壊して流失してしまい後に水角地域の人が仮堂を再建して、集会所に利用していたが、今は廃屋となり

墓地のみが存在している。

豊野地区の寺の概要

豊野地区には、中・近世時代に多くの寺が存在していたが、明治初期に廃仏毀釈令の措置により、無檀・無住の次の寺院が廃寺された。それぞれの寺について史書と照合して次に記載する。

◎藤塚村

阿弥陀寺

『新編武蔵風土記稿』には、浄土宗埼玉郡平方村林西寺末、寿照山光明院阿弥陀寺

と号す。

本尊阿弥陀、中興開山岌誉、慶長年中の人なり、と記されている。

登照院

『新編武蔵風土記稿』には、新義真言宗、埼玉郡粕壁宿最勝院末、本尊不動、寛文八年無賀和尚再建せり、と記されている。

地藏堂

『新編武蔵風土記稿』には、東国寺持なり、と記されている。

◎赤沼村

萬福寺

『新編武蔵風土記稿』には、常樂寺末稻荷山と号す。本尊観音。と記されている。

安養院

『新編武蔵風土記稿』には、常楽寺末、山王山と号す、本尊阿弥陀。

地藏堂。と記

されている。

正保院

『新編武蔵風土記稿』には、常楽寺末、本尊十一面観音、井光山と号

す。と記され

ている。

寶蔵院

『新編武蔵風土記稿』には、常楽寺末、十王山と号す、本尊不動。十

王堂。と記さ

れている。

龍寶寺

『新編武蔵風土記稿』には、常楽寺末、天王山と号せり、本尊は阿弥陀、境内に古き

石仏あり、文字は漫滅せり、外に養和・文保・徳治等の古碑あり、と記されている。

◎ 銚子口村

『武蔵国郡村誌』には、界老庵・閻魔庵・皓春庵が記載されている。